＜事務職・技術職＞

Ｑ．県庁や国家公務員ではなく、市役所を選択した理由は？

Ａ．（職員Ａ）

国や県の仕事に比べると、市役所は市民の方と直に接する機会が多いと考え、市役所で仕事をしてみたいと思いました。また、市内での勤務となるので、遠方への転勤もなく、将来のライフプランを計画しやすい点も理由のひとつです。

Ａ．（職員Ｂ）

学生時代は他県にいましたが、地元で働きたいという気持ちが強く、その中の選択肢で公務員を選びました。公務員になるにあたり、県か市か悩みましたが、津市に直接的に貢献できそうな市役所を選びました。

実際、１０年働いていて感じたのは、県の仕事は、どちらかと言えば市町の職員が働きやすいようにサポートしたり、市町の相談に乗ったりする仕事（市町の計画策定が進むようにひな形を作る、市町へ財政的な支援をする、法解釈に関する市町の相談に乗る等)、市は市民に対して直接関わって相談に乗ったり、市民に向けた新たな制度を作る仕事だと感じたので、県で働くか、市で働くかを考える参考にしてもらえたらと思います。

Ｑ．津市を志望した理由は？

Ａ．（職員Ａ）

平成２３年の東日本大震災を契機に、いざという時に頼りになる存在になりたいと思うようになり、地元である津市に一番近くで貢献できる仕事は何かと考えたときに、津市役所しかないと思いました。

Ａ．（職員Ｂ）

きっかけは地元で慣れ親しんだまちに貢献したいと思ったからです。実際どんな仕事内容なのか、どんな雰囲気なのかは分からないので、説明会やインターンシップに積極的に参加して、自分自身とその仕事が合っているか、したい仕事があるかを探していけばいいと思います。

Ｑ．津市出身でないのになぜ津を選んだのか？地元は受けなかったのか？

Ａ．一般企業・地元市役所ともに受け、地元市役所は不合格でした。そして、

一般企業で採用を頂いた企業と津市役所を比べた時に地元に近いということと安定しているという２点を考慮して、津市を選びました。

Ｑ．県庁所在地だからこその仕事はありますか？

Ａ．津市は人口３０万人未満ですので、県庁所在地ですが一般の市町村と大きく変わりません。ただ、県庁所在地であるために注目度は高く、「津市では〇〇ということについてどういう考えですか。」と他自治体から聞かれることがあり、そこは県都ならではの部分なのかなと思います。

Ｑ．採用試験において、出身地によって不利なことはありますか？

Ａ．ありません。津市で働きたいと思う気持ちや動機があれば全く問題ないと思います。実際に県外や市外出身の職員もたくさんいます。

Ｑ．仕事のやりがいをどういった時に感じますか？

Ａ．（職員Ａ）

市民の方から感謝の言葉をいただいたときは、やりがいを感じ、モチベーションの向上に繋がっています。

Ａ．（職員Ｂ）

市役所の仕事は、税や保険関係の部署のように、法律に決まったことを期限通りにきちんとやる仕事もあれば、防災室の業務のように、法律には「住民の命を守る」ぐらいしか書いていなくて、どのように住民の命を守るのかを考えるのは市町に裁量がある仕事、地域連携課のように、市民の様々な相談に乗って適切な部署に繋いだり、間に入って調整する仕事など様々です。現在、働いている防災室では、災害対策という裁量の大きい仕事なので、どういう方法が良いのか、知恵を絞りながら検討していくことにやりがいを感じます。

また、異動も何度か経験して思うことは、どの部署も市民のためになる大事な仕事なので、様々な業務を経験しながら、市民のために働けることにやりがいを感じます。

Ｑ．仕事で苦労したことはありますか？

Ａ．行政が行う仕事は、法律や条例など、根拠となるルールをきちんと把握したうえで公平公正な対応をする必要があるため、複雑な法律等を勉強するの

は大変でした。

Ｑ．残業は多いですか？また、サービス残業や休日の出勤はありますか？

Ａ．（職員Ａ）

配属部署や時期によって大きく異なります。私の経験では、新しい事業が始まって忙しかった年は平均で月４０～１００時間残業していました。一方その翌年は事業も落ち着き、残業時間は月１０時間程度に減りました。サービス残業はありませんが、イベントなどで休日出勤となることはあります。

Ａ．（職員Ｂ）

イベントや催し物があると、休日の出勤はあります。また、普段の仕事以外にも災害発生時の対応や選挙事務は平日休日に関係なくありますが、当然ながら時間外手当が付くのでサービス残業とはなりません。

Ｑ．休暇はどのくらい取れますか？ また、育児休業は取りやすいですか？

Ａ．（職員Ａ）

繁忙期等で、一部取得しづらい時期はありますが、自分自身の業務の処理具合やスケジュール管理を行えれば取りやすい環境にあると思います。

Ａ．（職員Ｂ）

昨年は年間２０日のうち、時間休も合わせて合計１０日程度取得しました。旅行や子供の行事に加えて、急なお迎えで１～２時間早退できるのは便利でした。またそれに加えて夏季休暇を５日、子供が体調を崩した時に子の看護休暇も利用しました。

Ａ．（職員Ｃ）

男性職員も育児休業を取りやすい環境です。実際に、同課の先輩職員が３か月ほどの育児休業を取得していました。

Ｑ．人事異動は何年くらいで行われますか？

Ａ．職員によって様々ですが、最初の配属から数年で変わる人が多いと思います。私自身の場合は、今まで２つ課を経験しましたが、どちらも３～４年くらいで異動しています。

Ｑ．働く前と後で感じたギャップはありましたか？

Ａ．（職員Ａ）

入庁前はずっと自席でパソコンと向かい合っているイメージでしたが、入庁後は直接現場に行く外の仕事も多く、その日の出来事や流れによって臨機応変な対応が求められることにギャップを感じました。

Ａ．（職員Ｂ）
両親が公務員で市民の方からクレームやご意見等をいただくことが多いことは入庁前から覚悟していたのでギャップは少なかったが、細かいことまで市役所の業務としてあるのかという驚きはありました。

Ｑ．事務職でも特殊なスキルや資格を活かすことができますか？
Ａ．地方自治体が担う業務の幅は非常に広いので、強みを活かせる場はあると思います。私自身は自動車運転免許しかありませんでしたが、ＩＣＴに強い人、様々な資格を持っている人はいます。ただ、業務に必要な資格は、入庁後に取得できるので、今の時点で必ず必要というものはありません。

Ｑ．業務を行う上で何が一番大切か？心がけていることは何か？
Ａ．コミュニケーション能力です。どの業務でも、市民の方や取引業者、職員同士のコミュニケーションが大切になります。１人で仕事は出来ないので、普段から丁寧な対応を心掛け、相手に対して感謝の気持ちを忘れず接するように心がけています。また、窓口対応では、丁寧な対応はもちろん、自分の主観だけで対応するのではなく相手の立場に立って考え、分かりやすく説明出来るよう心がけています。

Ｑ．必要な知識や資格はありますか？
Ａ．（職員Ａ・事務職）
仕事をし始めた頃は、業務を覚えたり専門知識を身に付けるための勉強だったたり大変に感じることもありましたが、業務を行っていくうちに効率的な進め方や知識が身に付いていくので問題ありません。困ったときは同僚や上司の方にアドバイスをもらえますし、研修等で勉強できる機会もあります。また、同様の業務を行ってきた先輩方のマニュアル等もありますので、それを参考にしながら業務を進めていくことができます。
Ａ．（職員Ｂ・技術職）
日々の業務の中で、知識を習得できますし、先輩職員から指導を受けるので

仕事を始めてから勉強をしても問題はありません。資格については必須ではありませんが、職場によっては施工管理技士の資格があるといい所属もあります。

Ａ．（職員Ｃ・技術職）
採用試験で専門試験がありますので、ある程度の基礎知識は必要ですが、日々の業務の中で、わからないことはその都度調べたり、先輩職員が教えてくれたりするので、膨大な知識がなくても業務には支障ありません。

Ｑ．専門が工学系ですが事務職に興味があります。事務職の配属先がかなりたくさんあって不安です。

Ａ．事務職は様々な職場に配属される可能性があるので、その不安は理解できます。事務職として基本的な軸はありますが、部署が変われば業務内容も全く違うので、ある意味転職したようなことも起こります。一方で、様々な仕事を経験できるという面白さがあるのも市役所のいいところだと思うので、挑戦する気持ちを大事にしてほしいと思います。また、建設部などは技師が多いですが、そこに事務職として配属された場合、工学系の知識があるのは強みになると思います。

Ｑ．周りの方が大卒ばかりで不安です。高卒や短大卒の職員はいますか？

Ａ．高卒や短大卒の職員も多くいます。採用試験に合格するということは、津市役所の職員として資質があるということですので、学歴は関係ないと思います。入庁したら、津市職員としてのスタートラインは同じなので心配いりません。入庁後、自身がどうするかが大切だと思います。

Ｑ．公務員はお堅いイメージがあり、体育会系の自分が馴染めるか不安。

Ａ．津市役所は職員数も多く、様々なタイプの人がいます。なので、イメージと違い、陽気な人柄の職員や、体育会系の職員も多いです。市役所内に様々なスポーツの部活動もあるので、きっと自分に合った仲間が見つかります。

Ｑ．民間企業との違いは？

Ａ．公務員の仕事の多くが法律で定められているため、民間企業に比べてできることとできないことの区別がはっきりしています。決まっていることをコツコツこなしていくことができる人に向いていると思います。

Ｑ．同期等とのコミュニケーションの場はありますか。

Ａ．仕事以外でも、新採研修や自由参加の職員組合のレクリエーション等で接する機会は多く、仲を深めることができます。

Ｑ．市の教育委員会は学校の先生達とも一緒に働くのか？

Ａ．教育研究支援課や学校教育課には小中学校の先生方も配属されています。様々な立場の先生方と一緒に業務を行う上で、よりスムーズで円滑な学校運営が出来るように各担当が連携して業務を行っています。